県立病院ニュース

第９号

平成１９年６月発行

発行　福島県病院局経営改革グループ　http://www.pref.fukushima.jp/kenbyou/index.htm

病院事業経営改善計画

県立病院の医療機能等の充実強化を図り経営改善を実現するため、収支目標の設定や、改善策等を定めた福島県病院事業経営改善計画が、平成１９年3月26日に福島県行財政改革推進本部県立病院改革推進部会（部会長：副知事）において了承されました。

その概要は次のとおりです。

「福島県病院事業経営改善計画」の概要

第１　計画の概要

１　計画の位置付け

○　県立病院事業を取り巻く環境は厳しく、現状のままでは経営は深刻さを増し、抜本的な経営改善を図らないと県立病院の存続すら厳しい状況におかれることになる。

○　存続病院は、時代の変化に対応して病院の役割や機能を十分に果たしていくとともに、県民に期待され信頼される病院として、良質な医療の提供と健全な経営を実現することが求められている。

⇩

「県立病院改革実行方策」を踏まえ、県立病院の医療機能等の充実強化を図り経営改善を実現するための計画

この実現のため、収支目標の設定、経営改善・充実強化策等を定める

２　計画の期間

平成１９年度から平成２３年度までの５年間

３　計画の進行管理・評価・公表

○　外部の有識者からなる経営に関する検討組織の設置

・　計画の取組状況等の点検や見直し

・　経営形態を含めた今後の病院経営のあり方についての検討

○　検討内容等については、ホームページ等で公表

第２　経営改善目標

計画最終年度（平成23年度）までに、基本的な収支において、早期に減価償却費を除いて黒字とし、内部留保資金を発生させる

第３　基本方針と経営改善・充実強化策

基本方針１　良質な医療サービスの提供

（１）医師の確保　（２）医療水準・医療の質の向上

基本方針２　安全な医療の提供と患者サービスの向上

（１）医療安全対策の強化　（２）患者サービスの向上

基本方針３　経営基盤の確立

（１）収益の確保　（２）費用の見直し　（３）経営体制の強化

基本方針４　地域との連携・共生

（１）各地域の病院・診療所等や保健・医療・福祉等行政機関との連携強化

（２）病院ボランティアとの協働　等

平成１８年度決算における純損失は22億（累積欠損金は221億）で過去最大の赤字となるなど極めて厳しい経営状況にある中で、この経営改善計画と今年度上半期までに策定する「（仮称）県立病院事業経営改善等アクションプログラム」によって、経営改善・医療機能の充実強化への取組みを一層強化するなど、健全な病院経営を目指しあらゆる努力を尽くしていきます。

トピックス

福島県ゆかりの医人達

病院事業管理者　茂田　士郎

福島県ゆかりの医人というとすぐに名を挙げられるのは野口英世です。野口英世についてはさまざまな伝記、解説書があり多くの人がその生い立ちから業績まで知っています。しかし我が福島県にはその他にも多くの優れた医人達がおり、名前を出すとああ、あの人もと思い出すかもしれません。総合衛生学院の講義のなかでこれらの医人達にふれる機会があるので、少し調べました。10回ほどのシリーズで連載したいと思います。

第一回　『小野隆庵（1713－1793）』

小野隆庵は小野市左衛門の六男として1713年現在の福島県伊達市（当時の伊達郡伏黒）に生まれた。多数の執筆があり、飛鳥山人と号した。16歳の時より2年間福島城下の猪狩尚迪について医学を学び、19歳より仙台に出て伊達家の侍医長倉水迪の門下医について修行した。32歳の時京都に出て、当時の古医道の大家であった吉益東洞の下で3年間学んだ。隆庵は34歳の時に郷里に戻り桑折町西町にて医業を開業したが医業に勤める傍ら医書を熟読し、自ら数々の医書を執筆した。隆庵は幼年期より漢書の学習に励み漢学の素養に富んでいた。その当時保原村高子に熊坂台州という詩人（台州自身も医師であった）が住み白雲館という文人グループを結成して漢詩などの交流に励んでいたが、隆庵も漢詩を嗜んだらしく、その一門の中に名が見られる。隆庵が漢書に力を入れたのは当然漢方医学を深く学ぶためであり、後に漢方医学のなかでも考証的、実証的であるとされた望月三英に師事入門して秘蔵の書と言われた方書の書写を許された。それが後に医書の名書と言われた「古方選」の執筆につながったと云われている。隆庵には古方選の他にも「飛鳥山館薬名考」など30に及ぶ著書があり、いずれも漢方医学に関したものばかりである。同じ安永年間に、前野良沢、杉田玄白らが和蘭医学を志して「解体新書」を翻訳したことを考えると、隆庵の向学心が当時の新しい医学の道に進まなかったことは惜しまれる。しかし江戸時代の中期に早くも、南東北の信達地方に医学の祖ともいうべき医師が存在したことは郷土の誇りであろう。

隆庵の墓が桑折町寺坂にあるというので、4月中旬の暖かい日に訪ねてみた。東北本線桑折駅を降りて旧4号線である中心街を南へ歩くと、国定重要文化財である旧伊達郡役所の前に出る。その裏の南斜面が団地になっているがまだ畑が残っていたり、古い2軒長屋の集団住宅なども見られる。丁度散歩中らしい老年の男性に「小野隆庵のお墓があるそうですが」と尋ねてみると、団地の外れに古いお墓があるよと案内してくれた。なるほど斜面の外れの崖の下には桃畑と田んぼが続くという場所に4つの石の墓が残されていた。そのうち一つに辛うじて「〇〇山隆翁居士」とあり、側面に「〇政五年〇〇」（寛政五年か、）と残されていたので小野隆庵の墓であろうと想像した。帰りには改めて団地の中を見ながら歩いてきたが、所々の畑の中に土饅頭に近い古い墓がいくつもある。いずれこれらの墓も無縁の墓として取り除かれてしまうのか、たまたま隆庵は有名人だったので墓が移転・保存されていたのかと、遺骨も何もないであろう墓石の写真を写して索漠たる思いがした。しかし小野隆庵の墓は未だ、かつて彼が活躍したであろう桑折の村の桃の畑と半田山を見渡す高台の上に残っている。

～ご意見・ご感想をお寄せください～

親切 信頼 進歩

E ﾒｰﾙ:kaikaku@pref.fukushima.jp　FAX:024-521-7924【病院局経営改革グループ】